Director, Botanical Survey of India for facilities.

*　*　*　*

カルカッタの Botanical Survey の標本館に所蔵されているビルマ産のヒルギカズラ属のうち 3 種類は明らかな新種と考えられるので報告する。

□佐藤達夫：**花の画集 3.** pp. 67. pls. 16 中日新聞東京本社並びに東京新聞出版局，東京（1973）¥ 1900。佐藤さんのこの花の画集も 3 になった。画は勿論，文章も解説も一切を挙げて佐藤さんであるのはこの本の大きな特色である。図の印刷は素晴らしく好い。それにも増して意義があるのは，なんといっても原画のよさである。その原画は，単に現物に忠実であるというだけではない。いわばその花の持つ精神といったものを巧みに写しとっているのである。それが画面に溢れているので，何度みてもあきることがなくやさしくそれでいてひしひしとせまって来る。このような画の描ける人はちょっといない。その人が昨年 9 月に卒然と逝ってしまった。もっと齢をかすことが何故出来なかったのか。本をひらいて感嘆し，重ねて痛恨に打ちひしがれるのは私ばかりではないであろう。この号もまた自由に題材が選ばれている。16 種，外国産もあれば日本産もある。その克明な措写の跡には充分に植物学的な注意が払われている。たとえばミナヅキには輪生葉が三輪生であるのに注意し，わざわざその第二段で一葉が落ちたことをことわってあるし，フジアザミではその総苞片に明瞭にとげを縁に描いてその特徴を明示している。たゞ一つ気に入らぬことがある。それはサカワサイシンのがく筒とがく内の隆起とが一致しないことで，これは千慮の一失という処か。

□佐藤達夫：**花の幻想** pp. 62. pls. 28 矢来書院，東京 ¥2,500。佐藤さんの花の画集が 3 で終って名残惜しく思っていたらこんどは写真集がでた。戦前カメラ界に名をはせておられたことを私は知らなかったのでびっくりした。御自分から抒情派ないしは耽美派といわれるだけあって，ヤマシャクヤクとオキナグサ以外は或程度の大写しである。当り前のことだが，背景がうまくとられていて，大写しの被写体が一段と浮き上がっている。それに画集と同じように，植物学的特徴がよく捕えられているし，題材の扱いにその植物に対する愛情が溢れていて気持がよい。ホテイランのように甚だ珍らしい種類もあるが，大部分はビョウヤナギ，フシグロセンノウといったあり来たりの種が主である。そのあり来たりの花を写して，そこに細かい特徴をじつによく出している。たとえばビョウヤナギのおしべが開出しながら，先近くになって直立すること，フジクロセンノウの花弁の小鱗が意外に肉太であること，キカラスウリの花冠一面に短毛が生えていること，サワギキョウの花弁には咲き立ての時だけ白毛が目立つことなど，私はこの写真集をみて初めて知った位である。前の画集と同じように引きつゞき二集三集が出るのを心待ちにしていたのであったが，それも空しくなった。謹んで佐藤さんの御冥福を祈る。　（前川文夫）